

6. GP併設の採卵養鶏場におけるサルモネラ清浄化への取り組み

大分家畜保健衛生所

○渡邊春香・本多祥宏・丸山信明・安部行倫
病鑑 滝澤亮

【はじめに】近年、食の安全に対する意識が非常に高くなる中、鶏卵由来のサルモネラに起因した食中毒の発生は毎年後を絶たない。これに対して我々は、鶏卵衛生管理体制整備事業による定期検査を実施し、食の安全性を求める消費者のニーズに応えている。今回、管内の採卵鶏農家の鶏卵選別包装施設（以下GP）で、食中毒の原因菌の1つである *Salmonella Livingstone*（以下SL）が検出された。本来であれば汚染鶏群をオールアウト後、農場消毒等により清浄化するのが望ましいが、当該農場は共同購入指定農場でもあるため対策が急務である。そこで我々は、鶏舎に隣接し消費者と直結する場でもあるGPの清浄化を図ることで、出荷卵の安全性を確保すべく取り組んだので、その概要を報告する。

【農場の概要】採卵鶏 飼養規模 40,000羽

【材料及び方法】

①鶏舎及びGP環境材料を用いた細菌検査：鶏病研究会サルモネラ検査法に準じて実施。

②各鶏群に対する抗体検査：SLの属する07群のLPSを抗原としたELISA

【検査成績及び指導内容】

第1回目 GP原卵搬入口床材料からSL検出。

指導内容：GP施設の洗浄、逆性石けん製剤を用いた消毒。

第2回目 GP原卵搬入口床材料及び5号鶏舎床材料からSL検出。

指導内容：サルモネラに対して消毒効果の高い複合次亜塩素酸製剤を用いて鶏舎床を1週間毎に消毒。各鶏舎入り口・GP入口に設置してある踏み込み消毒槽の消毒液を複合次亜塩素酸製剤に変更。またGPにおいては、消毒薬の臭いが卵に移ると商品価値が下がることから、無臭の消毒薬の使用を検討。GP床を逆性せっけん製剤を用いた発泡消毒にて1週間毎に消毒。

第3回目 5号鶏舎塵埃材料からSL検出。

指導内容：鶏舎消毒実施前に機械・壁・床等の塵埃の除去するよう指示。

第4回目 各鶏群に対する抗体検査を実施。空舎の3号鶏舎を除いた、4・5・6号鶏舎の鶏から採血。3鶏舎ともネガティブコントロールと比較して高い抗体価を示した。

第5回目 全成鶏舎の床材料を牽引スワブにより採材、サルモネラ菌は分離されず。

【まとめ及び考察】今回、鶏舎床のSLが人・器具の動きを介してGP原卵搬入口床に持ち込まれた可能性が示唆されたため、当該農場の踏み込み消毒槽の消毒薬の変更及び設置、鶏舎床・GP床の定期的な消毒実施を指導。また、各鶏群に対する抗体検査結果から成鶏舎におけるSL感染が示唆されたが、全成鶏舎の床材料からサルモネラ菌は分離されなかったこと、GP施設内からサルモネラ菌が分離されなくなったことから、現時点でのGPの清浄性が確認できた。今後も農場に対して定期的な消毒の継続を指導するとともに、当所としても1ヶ月おきの環境材料採材を継続しサルモネラの清浄化を確認していきたい。